

IPv6 Ready Logo取得状況に見る 「これからの日本の進む道」と課題

2011年7月7日

社団法人 テレコムサービス協会
政策委員会委員長 今井 恵一

IPv6 Ready Logoとは



<http://www.ipv6ready.org/>

多くのルータ、スイッチなどのネットワーク製品はフェーズ2を取得している

● IPv6 Ready Logo Program

- IPv6対応機器に対する国際的な機能認証ロゴ
- IPv6普及を目指す国際NPO『IPv6Forum』が2003年に制定し、検査仕様も策定
- 日本、米国、欧州、中国、韓国、台湾の各協力組織が審査
- 2008年4月より、国内での認証はJATE（電気通信端末機器審査協会）が担当

<http://ipv6.jate.jp/cert>



フェーズ1
(基本機能のみ
→廃止の予定)



フェーズ2
(Core Protocolsの他、
IPsec, DHCPv6など数種類)

● (参考) IPv6 Enabled Logo Program

- IPv6の導入を加速させるため、既にIPv6による利用が可能であることを示すロゴ
- IPv6Forumが2009年6月に制定し、国内ではJATEが受け付ける
- IPv6で到達可能なWebサイトとISPのIPv6サービスの2種類のロゴを規定

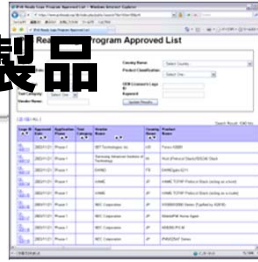


こちらは、ほとんど普及していない

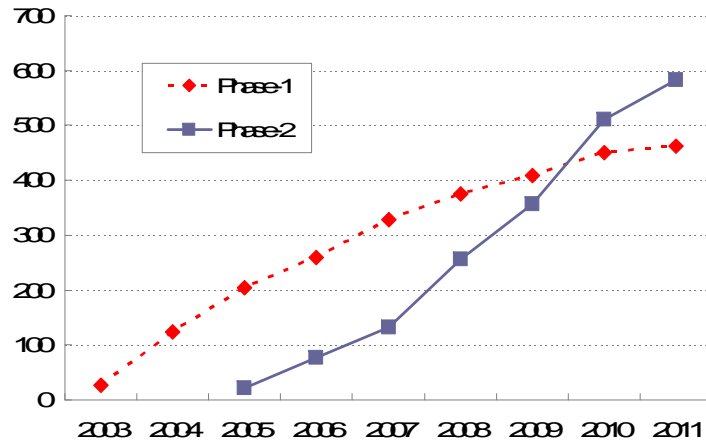
IPv6 Ready Logo取得製品

2011年7月6日現在

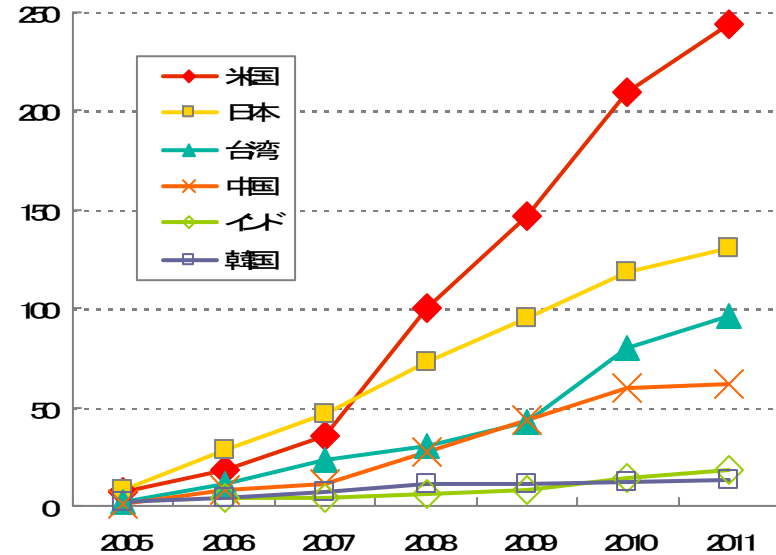
<https://www.ipv6ready.org/db/index.php/public/>



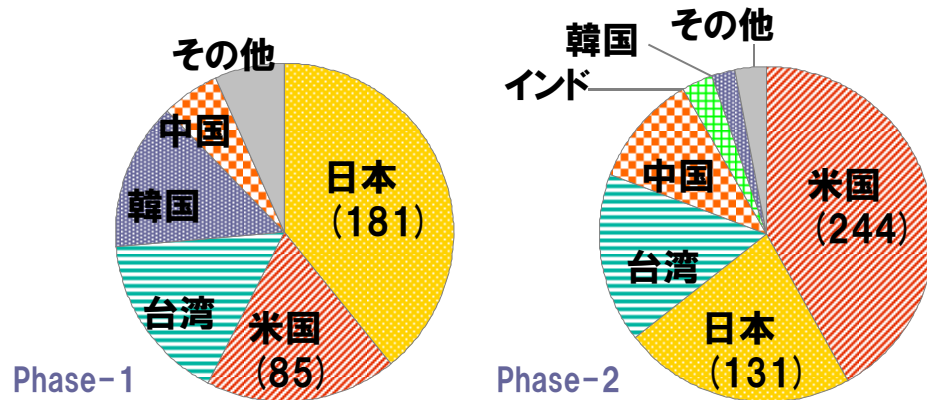
●Logo取得製品数の推移



●Phase-2 Logoの国別取得数の推移



●国別Logo取得製品数の分布



- 2010年以降、フェーズ2の取得が主流
- 日本も取得数は増えているが、2008年以降は米国が大幅に上回る
- 最近では台湾の取得数が伸び、日本に迫っている

Logo取得の最近の傾向：米国と台湾が伸びている

●Logo取得の単位

- ・ ネットワーク機器などは製品シリーズごとに取得
- ・ サーバなどは、OS単位に取得
 - HP-UX、Windows Vista、Windows Server 2008、vSphere (VMware)、Red Hat Enterprise Linuxなどは取得済み
- ・ 組み込み系では、プリンタ、デジカメと思われるOSなど

●米国と台湾でLogo取得が増えている理由？

- ・ ルータ、スイッチやサーバ系のOSなど、世界のインターネットで使われている機器、ソフトに米国製が多いのは事実
- ・ World IPv6 Dayを主導したのも米国企業のGoogleなど・・・
- ・ このままでは、IPv6は米国や台湾が勝者に??

IPv6に関して、「日本の進むべき道」と課題

●日本がIPv6の分野で国際競争力を発揮するには・・・

- ・ 現状および近い将来に米国に大勢のIPv6ユーザが出現するわけではない？
 - これまでは、米国内のISPがIPv6サービスの提供にそれ程積極的ではなかった
- ・ ISPのIPv6サービス提供は、日本が世界で最も進んでいる（はず）
 - 1-2年のうちに、国内の大半のユーザに追加料金なしでIPv6アドレスを配っている（はず）

国内のISPがIPv6サービスを提供する流れはできた

●日本を、実質的なIPv6サービスの先進地域として経験を積むべき

- ・ そのためには、コンシューマユーザだけでなく、サーバ側もIPv6/IPv4デュアル化が必要
- ・ **公開サーバ、ECサイト、データセンターなどのIPv6対応は進むか？**
 - サーバ側がIPv6対応するメリットは？ or IPv4のままの時のリスクは？（CGN問題??）
 - IPv6対応を推進させる方策は??

この流れができるか？

・ 近い将来、アジア地域でIPv6対応が必須になる

- その際のキャリア/ISPへの支援、データセンター事業への参入などを日本が果たせるか？
- 日本がIPv6で先行しないと、主役はやはり米国か、自国内で経験を積む中国か??